

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	東北地方における食料支援体制の強化
資金分配団体名:	特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム
実行団体名:	特定非営利活動法人 フードバンク岩手
実施時期:	2021年 3月～2022年 2月
事業対象地域:	東北地方(岩手県、青森県、秋田県、宮城県、福島県、山形県)
事業対象者:	各県のフードバンク団体が支援している対象世帯

Version 3.2

日付: 2022年3月11日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>【岩手県内の行政や社会福祉協議会等の支援機関を通じた食料支援】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.行政や社会福祉協議会など困窮者支援団体などと連携した食料支援(岩手県内) 2.市民や企業より食品募集を広く周知することにより食品を効果的に集めると共に貧困問題への関心を高める。 3.他地域(関東地方)のフードバンク岩手との食品の交換を行い地域間の差を埋める <p>【東北各地のフードバンク団体へのアドバイスの実施及び食品提供】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フードバンク岩手が東北地方の各フードバンク団体の支援や食品提供を行い安定的な食料を確保し、相談支援機関と連携し生活困窮者に食料を提供できる体制の構築。
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>岩手県内における行政や社会福祉協議会など、困窮者支援団体などと連携した食料支援は緊急的な食料支援要請が前年比(事業期間と同期間)で136%(2020年3月～2021年2月718世帯9100.7kg1世帯あたり12.7kg:2021年3月～2022年2月979件11133.1kg1世帯あたり11.4kg)となり、コロナ禍により一層困窮する世帯が増えてきたが、支援機関との連携により対応する事ができた。</p> <p>チラシ配布や新聞広告の効果などにより食品の募集と周知、貧困問題への関心を高める活動は、集まった食品量からもこれまで以上に多くの県民に周知することにより共感を得ることができ、食品量の増加につながった。(食品増加量:128%(前年同時期37764.4kg→本事業期間48236.2kg))しかし目標としていた東北各地のフードバンク団体へ直接訪問し各団体へのアドバイスは合計27回実施したその内、行政等への直接交渉は3回(いわき市やその周辺の自治体等の支援機関と仙台市、宮城県社協)実施し連携がとれやすくなった、その他としては山形県庁との協働によるフードドライブの実施(年2回)や八戸市ではアドバイス後自治体との意見交換につながった。</p> <p>東北各地のフードバンク団体との食品交換では3284.6kgの提供と予定の20000kgには届かなかった、理由としては岩手県内からの食料支援要請件数が想定より多く必要とする食品が不足したことや、食品回収BOXを設置している施設等の閉鎖やコロナ禍による外出自粛などが影響した。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
生活困窮者	相談先の不足	岩手県内の生活困窮者が支援機関を通じて食料支援を受けられる	支援機関からの食料支援要請数	1020世帯(2160人)へ世帯の希望に沿った食品の詰合わせを提供	2746世帯(7548人)	支援機関からの緊急食料支援要請件数は979世帯1857人となったが支援機関からのその他の支援要請を含めると2700世帯を超えた、以前に貸付の支援を受けており返済が終わっていないなど貸付等の支援が受けられない世帯からの要請が増えたのも要因の一つである
生活困窮者	その他	フードバンク岩手で必要とする食品を集める	食品の取扱い量	期間中に60トンの食品を集める	48236.2kg	食品回収場所である施設の閉鎖なども集まりにくくなった理由
生活困窮者	食料関連の不足	他地域のフードバンク団体との食品の交換により必要としている食品の確保が行える状態	食品の交換量	期間中に5トンの食品交換を行う	1200kg	目標値には達しなかったが理由としては岩手県内での食料支援要請が想定よりも多く、他地域へ使用する食品量が減少してしまった
その他	食料関連の不足	東北のフードバンク団体の現状把握調査	各団体への訪問件数	各団体1回(13団体)	10回(10団体)	当初の予定では13団を支援予定であったが、事前の調査でフードバンク活動とは違っていたため今回対象とする団体を10団体とした
その他	連携の不足	東北のフードバンク団体へアドバイス	各団体への訪問件数	各団体3回(13団体×3回=計39回)	54回 (直接訪問27回) (オンライン28回)	直接訪問だけではなくオンラインでの面談も併用し実施した。 支援内容は団体のステージや状況等(設立年数・食品取扱い量・福祉機関等連携先・企業連携・フードドライブ)により回数や方法を変更した。支援内容はフードバンクの基礎・食品衛生管理・行政等福祉支援機関対応・企業開拓・フードドライブの実施方法、運営資金、ボランティア管理等(訪問27回、オンライン28回 ※電話での支援対応は含まず) 沙羅双樹の会(訪問2回、オンライン3回) しあわせサポートいろいろ(訪問1回、オンライン2回) フードバンクあきた(訪問3回オンライン5回) フードバンクいしのまき(訪問5回オンライン3回) いのちのパン(訪問2回、オンライン2回) フードバンク仙台(訪問6回オンライン2回) やまがた福わたし(訪問2回オンライン2回) ザ・ピープル(訪問1回オンライン5回) フードバンク二本松(訪問2回オンライン2回) フードバンク郡山(訪問2回)

その他	食料関連の不足	東北のフードバンク団体の食品寄付量増加とフードバンク岩手からの食料の提供	各団体への食品提供数	岩手から合計20トンの提供	3284.6kg	岩手県内からの食料支援要請件数が想定より多く必要とする食品が不足したため
-----	---------	--------------------------------------	------------	---------------	----------	--------------------------------------

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>①岩手県内の「食のセーフティーネット」を充実させ、新型コロナウイルスや岩手県の経済状況の関わらず生活困窮者が支援機関等の相談窓口を通じ、必要とする食料支援を受けられる状態。また食料支援に必要とする食品を岩手県内で確保できる状態とする。</p> <p>②東北地方フードバンク団体が今後増加する可能性の高いコロナ禍の影響を受けた生活困窮者を支援機関と連携し継続して活動ができる食品の確保ができる状態とする。</p>
考察等	<p>岩手県内で「食のセーフティーネット」を充実させ生活困窮者が支援機関等の相談窓口を通じ、必要とする食料支援を受けられる状態とそのための周知広報を実施した。具体的には、食品回収と同時に困窮によるSOSの入口を担う食品回収BOXの設置箇所に、当団体のチラシや支援機関の窓口の案内を設置し、また食品募集チラシの配布と新聞紙面へ広告を3回掲載し、主に岩手県民への認知度向上を計画実施し必要とする食品の確保に努め、目標としていた食品寄付量60トンは達成できなかったが寄付量50ト弱と前年比で3割増となり概ね目標通りの状況になった。</p> <p>東北地方のフードバンク活動団体と支援機関（行政や社会福祉協議会、生活困窮者支援団体等）と連携し支援機関を通じた食料支援体制はできつつあるが、特に新設フードバンク活動団体の福祉的な知識が足りていないところも見受けられ、今後食品衛生管理と同じく一層の福祉的知識のアドバイスが必要である。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
①-1.岩手県の行政や社会福祉協議会、困窮者支援団体等と連携した食料支援(要請の世帯構成や状況に応じた食品の詰合わせをスタッフが提供する)	計画通り	岩手県内の生活困窮者支援機関等からの食料支援要請に則した食品の詰合わせを作成し即時に対応する事ができた。しかし今後コロナ禍が長引く事により貸付を受けられない世帯等からの食料支援要請が増えた際に対応し切れるかが課題。
①-2.食品募集の広告やチラシを配布し市民や企業より食品募集を広く周知することにより食品を効果的に集めると共に貧困問題への関心を高める	計画通り	食品募集は新聞広告や岩手県内でのチラシ配布により周知することができ当初の60トンの目標に対し48トを集める事ができた。またボランティアの参加者数も前年より191人増の延べ919人実数330名(内高校生ボランティア実数142名)となっており関心は少しずつではあるが高まった。「前年ボランティア参加者数延べ728人実数226名(内高校生ボランティア実数73名)」
①-3.関東から東海地方のフードバンク団体との食品の交換を行う(岩手はお米⇔他地域はおかず類)	遅延あり	今後食品の提供は行っていくことになったが、現状関東や東海地方のフードバンク団体も食品の確保に苦労しており、当初の予定重量に比べ少なくなってしまった。(岩手から提供した食品量1200kg岩手が受領した食品量50kg)しかし東北地方ではお米の確保はしやすく、関東や東海地方では副食品が集まりやすいことから今後も継続する。
②-1.東北のフードバンク団体の現状把握の実施	計画通り	東北各地のフードバンク活動団体10団体はまだ活動期間が短くフードバンク活動に必要なノウハウも少ない事が分かった。内容としては大きく3つに分類され、①食品募集に必要な企業や市民へのはたらきかけのノウハウ不足、②食品提供者や支援機関が安心してフードバンクを活用するための食品衛生管理方法のノウハウ不足、③福祉的な知識や生活困窮者支援の方法や仕組みの理解不足により連携協働などが不十分であった。
②-2.東北各地のフードバンク団体へのアドバイスの実施	計画通り	各団体の強みは様々であったが、それぞれの団体の当面の目標に合わせたアドバイスを実施した。直接訪問し食品の管理状況や出庫方法も確認し、オンラインでのアドバイスも併用し、延べ54回のアドバイスを実施した。
②-3.東北各地のフードバンク団体へ食品提供(13団体程度)	遅延あり	東北地方では11団体へ食品の提供を行ったが提供量が当初の予定より少なくなってしまった。理由としては岩手県内かの食料支援要請が想定より大幅に増えたため東北各地のフードバンク団体へ提供するために必要とする食品を準備する事ができなかった。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>貧困問題と食品募集の広告を新聞に掲載したが、その際に必要とする広告費を新聞社に負担していただけた。</p> <p>また岩手県のJリーグチームと連携し食品回収を行うこととなった。</p> <p>また当団体の広報を知った盛岡第一高等学校の生徒5名が独自でスーパーに直接交渉し店舗でのフードドライブ活動(食品寄付運動)を実施したり、一戸高等学校の生徒8名がIGR銀河鉄道一戸駅内でフードドライブ活動を行い岩手県内で活動の広がりを見せた。</p> <p>これまで他団体に食品を提供することのなかった各地のフードバンク団体が他地域へ食品の提供を行うようにもなり、食品の地域差を埋めながら食品の配りすぎにならないよう適量の配布を実施することもできはじめた。</p>
----------------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>本事業では当初の目標を概ね達成できた。特に「食のセーフティーネット」では事業開始以前と比べ生活弱者を取り巻く状況が一層悪化しており、想定していた以上に食料支援のニーズが高く、岩手県内の食料支援で使用する食品量も多くなっており、今後一層SOSを出しやすくするため、フードバンクの知名度を向上させる必要があると同時に支援に必要とする食品量を確保できる体制を東北全体で構築する事が重要である。</p> <p>また東北6県にフードバンク活動団体が存在しているが、各県内すべての地域を網羅している状態ではないので、今後は団体がいない地域でも食のアクセスできる仕組みを検討する必要がある。</p> <p>東北地方での食品の地域差を埋め、協力企業の開拓も行いながら、首都圏のフードバンク団体との食品の融通なども検討し、生活困窮者支援で提供する食品の質も高めていく。</p>
------------------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
一般社団法人全国フードバンク推進協議会	フードバンク団体の連携の仕組みや食品のマッチング方法の講師及び実施：全国のフードバンク団体の食品マッチング方法やフォーマットを共有し、東北でも使用した。
セカンドハーベスト・ジャパン	首都圏と東北地方の余剰食品の交換を行う：地域によっていわゆる食品ロスになり得る食品の種類に偏りがあるため、東北→首都圏にはお米を輸送し、首都圏→東北には副食品を輸送する。輸送の協力を得られる企業の開拓が今後必要になるが、今後実施することは概ね合意がとれた。
岩手県社会福祉協議会・各市町村社会福祉協議会	フードバンク岩手に入ったSOSのつなぎ先、またその際に必要に応じて食料支援の実施(アウトリーチ)
盛岡市他各市町村	フードバンク岩手に入ったSOSのつなぎ先、またその際に必要に応じて食料支援の実施(アウトリーチ)

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	12,437,000	10,627,697	85.5%
	管理的経費	0	0	#DIV/0!
合計		12,437,000	10,627,697	85.5%

補足説明	
------	--

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	テレビ岩手ニュースプラス1いわて、IBCニュースエコー(2021.3.18) 沿岸部スーパーにフードポスト設置 東海新報(2021.6.29) 陸前高田市役所にフードポスト設置を掲載 岩手日報(2021.9.23) 一般企業で食品ロス対策を行い、フードバンク岩手の支援につなげる取組みについて掲載 15:30～FMいわて(ローカル番組)(2021.11.11) フードバンク岩手の紹介と食品募集のお知らせ等
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	夏休み緊急食料支援回収月間実施のチラシ作成 冬休み緊急食料支援回収月間実施のチラシ作成
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	上記チラシ掲載
4.報告書等	岩手日報社広告「支援の輪を広げようキャンペーン」(2021.7.13) 岩手日報社広告「支援の輪を広げようキャンペーン」(2021.10.5)

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)		
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	

XII. その他

自由記述
<p>岩手県内へのSOS対応のための食品発送作業において、ボランティアを募集したが、特にSDGsの広がりのおかげで、学生(特に高校生)の反応が良かった。ボランティア以外でも探求学習などで質問が多かった、しかし時間を割くことができず詳しい説明を行う事ができなかった。今後は将来の担い手である学生や若者へのアプローチも積極的に行いたい。</p> <p>生活困窮者を取り巻く環境は日々悪化していると感じる、今後NPOの財力だけでコロナ禍以前の2倍以上の活動を実施し続けるのは組織の体力的にも大変だと感じる。</p> <p>「困っている人たちがSOSを出しやすくすること」「貧困問題が身近であることを知ってもらうこと」「企業や市民が食品の寄付やボランティアに参加すること」この3つが広がる事により市民が助け合える地域をつくれるのではないかと感じ今後も継続していく。</p>